

2013年3月16日

一子

ハートのアセンション日記



[ヤン・ファン・エイク](#)画・ガブリエル

音楽や絵画などの芸術は、心で感じるもの、観るものとして、
また人々の心を癒すものとして世界に存在している。

現代は、物質主義が行き過ぎたために
かえって心が貧しくなってしまう、
「実存的空虚感」を抱える時代となっているかもしれない。

いわゆる、
「より多く、より豊かに生きる」ことが
一体何のためにあるのかを突き付けられている。
その解決法を見いだせないでいる。

私が芸術を仕事として選んだ理由は、
「感動を通して人々に心の豊かさを提供する」ことにあったのだと
思っている。

しかし、自分自身が心の貧しさを感じ、
内に空虚感を抱えていたために、
仕事自体に魅力を感じるができなくなっていた。
市場経済主義の波に飲み込まれていたのである。

多くの人々が宗教に助けを求めるのには、
その空虚感を埋めたい願望があるように思う。
精神世界や哲学に答えを求めたりもする。
私もそのひとりであったのかもしれない。
それが導きであったことを知るのは
大抵は後になってからのことである。

※

それは、ひとつの映画を通して起った。
(『ニュー・シネマ・パラダイス』)
その映像と音楽からの感動。
きっと死ぬ前にはこのように走馬灯のように人生が
感じられるのだろうと。
「Love Your Life」という言葉が浮かんでくる。

人は誰でも映像、絵画、音楽、書籍などから感じられる
感動を味わうのが好きだろうと思う。

「ガブリエルのオーボエ」という

イタリアの作曲家が創った映画音楽がある。

上記の映画音楽を創った作曲家によるものである。

その曲を聴いていると、

私にはなぜかガブリエルのラッパのように聴こえる。

イメージでは、自分自身が天使の羽をつけて

ラッパを鳴らし続けている感じがする。

それは、言葉ではない、

感動を通しての、

人々の心へ直接響く音であって欲しかったからだ。

故郷へ帰る時なのだと告げるラッパ。

心の故郷、魂の故郷へ。

母が待つ故郷へ。

エネルギーセンター、特にハートセンターに直接響く

その音に願いを託して、ラッパを吹く。

それは愛の歌、愛の音。

愛の祈り。

私の体中の響き渡るそのラッパの音は、
世界中に、宇宙中に響きわたっているような感じがした。

また、そうであって欲しいという願い、祈り。

※

いままで気づかなかったあることに気が付いた。

「重要だと思っていることは、一体誰が重要だと思っているのか」

ハイアーセルフ、本来の自己に気付いた瞬間だ。

ここで、アセンション日記の重要性に気付いた。

それは、ハイアーセルフの観点で自己の体験を

振り返るものとも言えるのである。

今まではわからなかったのだ。

今まで、「私の思考は一体どこからやってくるのか」と

考えていた時期があった。

また、悲観的感情などはいらないと思った時期もあった。

しかし、それも今はひとつの観方にすぎないと思っているが、
今までは真にはわからなかったのだ。

※

日常を通して、また仕事を通して、
感動を伝えるということは、とても重要なことであることに改めて
気付かされた。

それは、ハートを開くものあり、
本来の自己（神の子供）に気付くことだからだ。

感動、特に芸術関連は

頭で理解することもできるが、
多くは直接心に響くものである。

※両方といってもいいかもしれない。

無私の心で、一心になって取り組むこと。

無で相手に対峙することがやはり重要であると気付いた。

それは、相手のすべてを受け入れること。

私のすべてを与えること。

中今、大切なこととは、

「今、宇宙にとって地球にとって、人々にとって何が最も重要であるのか」

それに常にフォーカスしていること。

それが最優先事項であること。

これまではやはり言葉だけになっていたことに気付いた。

最も重要なことであったのだ。

ラッパを鳴らし続けること、

(比喩ではあるが、イメージではそのような行為である)

それは私にとっては、日常でのことであり、

全てである気がする。

またそれは集合意識に愛を贈るという言葉に置き換えられる。

自分が常に感動して仕事をしているのか。

それは、波動でいえば繊細な波動だが、

明るい、軽々とした、そして愛に満ちた存在としての自分。

Ennio Morricone - Gabriel's Oboe

<https://www.youtube.com/watch?v=L41oGXgVmZg>